

創立120周年を迎えるにあたり ・・・「恵幸」について！！

2019年9月5日（木）

来年創立120周年を迎える本校の長い歴史の跡をシリーズとしてたどります。
2回目は「恵幸」についてです。

明年120周年を迎える本校ですが、その歴史の中で長く
生徒会新聞のタイトルや、合宿所の名前等に使われている
「恵幸」という言葉について、いつ頃からどんな理由で使われ始めたのかを調べたところ、八十周年記念誌の中に掲載されていました。



『昭和初年頃、構内に憩所のない殺風景な学校なので礼法室前に土盛り、熊笹や多くの樹木を中庭より生徒が運んで植林し庭園を作った。園名を生徒より募集しその中から選ばれたのが「恵幸園」である。一中略—なお、この「恵幸」の名称は、新制高校になってから学校新聞・文化祭・合宿所等の名称にも採用された。』

創立80周年記念誌より

※ 恵幸園

昭和初年頃、構内に憩所のない殺風景な学校なので礼法室前に土盛り、熊笹や多くの樹木を中庭より生徒が運んで植林し庭園を作った。園名を生徒より募集し、いくつかの名案が応募され、その中から選ばれたのが恵幸園である。この恵幸園は特別教室建設後、昭和55年4月に特別教室西側周辺を中心とする広場に移転した。

なお、この「恵幸」の名称は、新制高校になってから学校新聞（恵幸）、文化祭（恵幸祭）、合宿所（恵幸会館）等の名称にも採用された。





＜現在の恵幸園＞

ここで注目すべきは、「恵幸」が生徒より募集しその中から選ばれたということと、88年たっても受け継がれていることです。

そして、現在の本校のスローガン

「My New Story 自らが創り出す未来」

も生徒より募集し選ばれたものであります。

まさに長い歴史を重ねてなお、生徒が主体である本校の精神は受け継がれていると言えるのです。

ここで注目すべきは、「恵幸」が生徒より募集しその中から選ばれたということと、88年たっても受け継がれていることです。

